

2024年2月26日

2023年度 第2回理容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2024年2月26日(月) 13:00-14:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 浦和校舎 地下1階 多目的室
3. 出席者 7名

	氏名	所属
1	石井 孝之	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
2	福島 正尚	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事長
3	若月 良仁	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事
4	吉野 昇邦	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 教務課長
7	松本 朋子	埼玉県理容美容専門学校 理容科主任

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)

5. 2023年度第1回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)

(1) 教育課程編成委員会の位置づけは職業実践専門課程・必須条件としての組織となる。

現在、文部科学省で2040年計画という20年かけて教育を変えていくというグランドデザインがある。その中で大きく言われているのが「CとLの世界」である。

CはCenterを意味し、東京や中央部については、より国際的な人材育成に励むという方針である。LはLocalを意味し、東京や中央部以外の地域では地元で即した人材を育成し、しっかりと地元を維持するという方針である。

本校はLocalに位置するため、地元で貢献できるような学生を育成し、教育と社会の現場がかけ離れたものにならないようにという目的でこの会が設定されている。

以上の内容は透明化が必要となっている。そのため、本会議の議事録はホームページ等で情報開示されることをご了承いただきたい。

(異議なし)

(2) 尚、開催期間は原則、前期1回目・後期2回目の年2回となるため、2023年度は今回が最終回となる。

6. 2023 年度の理容科実績報告

在学者数 70 期生 17 名（入学時 20 名）

71 期生 20 名（入学時 20 名）

松本 / 70 期生は入学時から 3 名退学者が出たが、71 期生は退学者が 0 名のまま 1 年を迎えることができた。また、例年は学科試験において 60 点未満の生徒が 50%を超えていたが、今年度は 25%になった。

学生の意識改革が良い方向へ作用しているように思う。

7. 前回 2023 年度前期に意見・提案のあった点を、2023 年度後期において修正あるいは取り入れて実施できているかに関する報告

(1) 2023 年度前期の意見・提案による 2023 年度後期の授業達成報告

1 卒業生講話についての報告

松本 / アメリカンバーバーを選んだ卒業生になぜアメリカンバーバーを選んだのかを聞いてみた。最初はアメリカンバーバーを希望していなかったが、ビジュアルやファッションで自分らしく仕事ができるから、アメリカンバーバーの道に進んだと言っていた。

また、今年度の卒業生講話では 5~6 年働いた方がアシスタントとして昨年の卒業生も連れてきてくれた。スタイリストは迷いなく喋り、アシスタントは迷いながら喋るなど、喋り方や立ち振る舞いにも違いがあった。

学生たちはこれから自分たちになる立場と、成長した課程の立場とのそれぞれの話を聞くことができた。

2 シャンプー実習の強化についての報告

松本 / 9 月にタカラベルモントの講習を受講した。

前回意見をいただいたヘッド・スパに関して、手取り足取り教えていただきながら、改めてやり方を学ぶことができた。

今後理容科の先生にもレクチャーし、次年度で取り入れていけたらと思う。

3 教員から挨拶することについての報告

松本 / 1 年生は毎朝の挨拶はもちろん、授業内の挨拶も立て直した。

厳しいではなく、それが当たり前だという指導を行った。

まだ全員が出来ていないので卒業までにできるよう意識づけていきたい。

2 年生は社会人としての挨拶ができるよう、残り少ないが指導していきたい。

4 サロン室のブラインドを開けるなど「見られる意識」についての報告

松本 /後期はサロン実習室のブラインドを開けながら、客、アシスタント、技術者でチームを組み、ローテーションをして授業を行った。

ブラインドを開けることによって、外から写真を撮っていく方もいた。

見られているという意識がついた一方で、鏡に映る自分が気になってしまい、客ではなく自分に意識がいてしまうということが課題である。

5 イベント参加の際の社会性育成の報告

松本 /11月にアリミノのコンテスト見学に参加した。

学生部門に同年代の子が出ているのを見て、学生たちも刺激を受けていた。

また、学生は外部に出るという機会が少ないので、他の学生がどのような服装をしているのか、どのように見学しているのかなど、周りの様子を見ながら技術だけでなく見学の仕方も勉強になった。今後も参加していきたいと思う。

3月には春日部特別支援学校に行き、ボランティア活動に参加する。

結果については後日ご報告できればと思う。

6 実務実習の結果報告

松本 /今年度は例年3月に行っていた実務自習を9月に行った。

まだ仕事の仕方も立ち方も分からない状態だったので送り出すのはとても不安だったが、学生はサロンとはこういうところだという指導を受けていた。

何も分からないまま行かせた方が良いのか、ある程度は分かってから行かせた方が良いのか、今後の実務実習の時期は迷いどころである。

7 2者面談の結果報告

松本 /今年度の2者面談は夏休み明けの1年生に実施した。

まだ入学して日が浅かったため、「楽しい」という意見が多かった。

学生に対してまずは学ぶよりもこの業界が楽しいということを伝えたかった。

4月に大谷翔平の目標シートに取り組んだことで、目に見える目標があった。

楽しく過ごす中でルールは守る、やるべき時にやるということを伝えてきた。

その結果、学生の「楽しい」という意見に繋がったのだと思う。

(2) 質疑応答

1 卒業生講話について

松本 /学生にどのようなサロンの講話を聞かせれば良いのか意見をいただきたい。

若月 /ここにというのは言えない。生徒に1番身近な人が良いと思う。

千住 /例えばどのようなサロンが候補にあるのか聞きたい。

松本 /卒業生がいる店で、アメリカンバーバーなど学生の興味のある店をピックアップしているが、同じ系統を聞いていても意味がないのではないかと思う。

若月 /自分たちの来年の姿である1年目の卒業生の姿を見せるのは大事だと思う。または極端な店を選ぶのはどうか。

千住 /学生はどのようなことに興味があるのか聞きたい。

松本 /アイロンなどに興味がある。YouTubeなどで独自で練習している子もいるが、本物の基本を学びたいという子が多い。カットに関しても同様の意見がある。

福島 /SNSを見るか見ないかで変わると思う。今は韓国系やハイトーンも流行っている。それらは1つのスタイルだから飽きも出てくるし、色々な変化がある。

吉野 /専門店だと面白くないのではないかと思う。

基本の形、崩した形など3パターン程対応できるサロンが良いのではないか。

福島 /理容ならシェービングに力を入れている店なども良いと思う。

千住 /理容科に数の少ない女子はどのようなサロンを希望しているのか。

松本 /女子は老若男女に対応できるノーマルなサロンを希望している。

福島 /ユニセックスに対応した美容をやるサロンも大事だと思う。

吉野 /レディースが1、2割でも来る店が良いと思う。

レディースカットにもきちんと対応できるサロンに務めている人の話を聞くことも大切である。

千住 /今後はバリエーションに富んだ人を呼び、幅広い立場から講話を聞けるようにしていければと思う。

2 シャンプー実習の強化について

松本 /ヘッド・スパ以外で取り入れるべきものは何かお伺いしたい。

千住 /今はどのようなことを実習で学んでいるのか。

松本 /1年生はスタンドシャンプーを学び、今はサイドシャンプーを学んでいる。

福島 /シャンプーやヘッド・スパにもシャンプーボール、トニック、スカルプローションなど色々な方法があるので勉強していくと良いと思う。

松本 /授業でトニックを使用したけど、トニックが何か分からない生徒が多かった。

吉野 /育毛にはコールドシャワー、気にしない人はトニックなど様々な種類がある。客から種類を聞かれることもあるので知識をつけると良いのではないか。

3 教員から挨拶することについて

千住 /挨拶に関して、全員は出来ていない。朝だけするという学生が多い。

松本 /声をかければ返してくれるが、向こうから挨拶をしてくる学生は半分いるか

いないかというのが現状である。

吉野 /自分の周りでも、最近の若い人は自分から挨拶ができないと聞く。

学生だけではないのだと思う。あまり言い過ぎると辞めてしまい、怒った方が怒られるという社会構造になっている。

若月 /挨拶は小さいころからの習慣だと思う。

学生たちも授業中はするが、授業後は知っている子も全然挨拶をしてこない。恐らく友人間でも挨拶をしないのではないか。

松本 /歳をとればできるようになるのか、立場が変わるのかどうか。

若月 /先生ではなく、2年生が1年生に言えるようになれば良いと思う。

生徒間で言うことによって後輩に継承されていくのではないか。

福島 /昔は先生が指導をせず、先輩から厳しく言われていた。

千住 /今の2年生と1年生の関係はどのような状況か。

松本 /2年生が良くない影響を与えるので今年は接点をあまりとらないようにしていたが、1年生が良く育ったので次年度は関わりを持たせてみようと思う。

以前は1年生が入学してすぐに2年生と交流する機会を作っていた。

今後行われる際には上級生から下級生への挨拶の指導も取り入れたいと思う。

吉野 /まず、社会人と学生の違いを教えてあげるのが大事である。

挨拶はその延長になるのだと思う。

石井 /就職したらアシスタント、スタイリスト関係なく社会人として見られる。

客はみんな店の人として見るから挨拶はちゃんとできるべきである。

千住 /社会人と学生の違いを教えながら、身近なところから指導していきたい。

4 サロン室のブラインドを開けるなど「見られる意識」について

松本 /学生は自分がどう見られるのかを意識しすぎてしまっている。

千住 /それが大事なのではないか。

松本 /それが大事なのだが、それによって客ではなく自分の髪を直してしまう。

鏡は客のものだから、自分の身だしなみは予め整えてから行くよう指導は行っているが、どうしても鏡に映る自分を見てしまっている。

改善策として逆に生徒を外に立たせてみる、それが危険ならば、指導する側が外から学生の姿を動画で撮り、学生に見てもらうのはどうかと考えている。

若月 /動画を撮るとするのは良いと思う。客観的に見ると分かってくれると思う。

福島 /自分で見られないところを見せてあげるとするのは改善に繋がると思う。

松本 /ブラインドを開けるだけでなく、もう1歩上のことをやっていきたい。

5 イベント参加の際の社会性育成

松本 /アリミノのコンテスト見学では学生部門での同年代の子たちによる人体モデ

ルなどがすごく刺激になったと思う。一方で、プロのつくった作品は自分の知識が追い付かず意識が向かない学生もいた。

学生に何を見せれば良いのかが悩みどころである。

吉野 /色々な作品を見て、感じて、向上させていくべきだと思う。

知識が追い付かなくても見るのが大事なので、1つに絞らず視野を広くすると良いと思う。長いスパンで考え、色々なことを知っていくことが学生たちの中で興味に繋がるのではないか。

松本 /視野を広く持つことの大切さをレクチャーしてから行かせたいと思う。

6 実務実習について

松本 /今年は9月に実務実習を行ったので、入学してから3カ月程しか学んでいない中で行かせた。何も知らないからこそ素直に聞けたという点は良かったが、何も知らずに行かせてしまったことに対する不安も大きかった。

今までは3月に行っていたので、学生も少しは学んでいる状態だった。

いつの時期が最善なのか意見をいただきたい。

吉野 /お店の人のタイプにもよると思う。手取り足取り教えてくれる人もいるし、教えずにやらせる人もいる。9月だと「店ではこんなやり方なのか」と素直に思えるが、3月だと学校で教わったことと店でのやり方の違いにギャップを感じる子が多いのではないか。

石井 /学校とお店の連携が何よりも大事だと思う。

また、やることは一緒でも学校とお店では違いがあるということを教えておくことが、実習に行く心構えとして大切だと思う。

松本 /何もできない自分がいたが、逆にそれを知れて良かったという学生もいた。

福島 /お店側は何もやらせてあげられないというもどかしさあると思う。

石井 /何もできなくて当たり前である。何もやらせられないというのが学校と実際の現場との違いを意識づける上で逆に良いのではないかと思う。

松本 /出す側としては3月の方が安心である。9月に行った学生にはまだ挨拶や社会人としての基本を教え始めたばかりだった。

千住 /実際9月に実務実習に行ってみて、その後の学生はどのような様子か。

松本 /実務実習で教わったことを今でも放課後に練習している姿が見られる。

福島 /例年3月に実務実習に行っていたことにより、今年度はまだ準備が足りなかっただけだと思う。9月に実務実習を行うようにするならば、時期に合わせて計画を立てて指導をしていくようにすれば良いと思う。

松本 /その場合、3カ月の指導で何を大切にすれば良いのかお伺いしたい。

福島 /挨拶や清掃など、技術面ではなく気配りが大切である。

石井 /店のシステムや流れを覚えようという気持ちを育てていくべきだと思う。

千住 /就職して1、2年目の卒業生に叱られたことや、やらかしてしまったことなどを講話してもらおうというのも良いと思う。

7 2者面談について

松本 /自分自身久しぶりに担任を持ち、この業界が楽しいということ传达了。学校自体は楽しむが、授業はしっかりやるという区切りをしっかりと。その結果、「学校が楽しい」という意見が多かった。一方で、自分で感じて答えを出して欲しいことを聞かれる。学生に決断力がないので、「こうしたいからどのようにすれば良いか」ではなく「自分はどうすれば良いか」という聞き方をされる。答えを探し求めている子が多いが、その答えを人に求める傾向にある。

石井 /自分が責任を負いたくないので先生に答えを求めているのだと思う。

「先生が言ったからそうした」と言いたいのだと思う。

松本 /自分のやりたいことや叶えたいことを主張はするが、答えが出せない。

吉野 /自分自身を知らない人と任せになってしまう。学生は人のせいにできるが、社会人は人のせいにしないのでできる人間にならないといけないと思う。

(3) 2024年度に向けての意見・アドバイス

若月 /来年に引き継げることが多いので、今後も継続していただきたい。

まずは挨拶から、生徒同士で教えてあげられるような取り組みをしていってほしい。上から下に言うことで自分自身を見つめ直すことに繋がると思う。

吉野 /挨拶や笑顔をいかに学生に浸透させるかが大事だと思う。

ヘッドマッサージなどに関しては育毛なども取り入れると面白いと思う。

石井 /挨拶をキーワードとして、社会人となり大人に見られる、自分で責任を負わなければいけないという意識を持たせていかなければいけないと思う。

福島 /アイロンのしっかりとした技術を学びたいという生徒の声はありがたい。

学校から言っただけであれば、学生の学びたい分野に関してもっと深く勉強させてあげられるような授業を展開していきたい。

リクエストがあるとありがたいので、もっといただければと思う。

8. 総括（司会・千住課長）

今後、学生はイベントに参加をすることなどで知識を増やすための経験をする。知識を広げることによって、大人とはこういうことなのだという落としどころを学生に伝え、イコールで結びつくようにしていけると良い。また、ブラインドの開放だけでなく動画などで自分たちの姿を見せることによって自分を客観的に見つめ直すことができるようにしていきたい。

挨拶やマナーが不足している点においては、先輩から後輩へ伝えていけるように学生を育てていき、1年生が2年生に教わったことを次年度に繋げるようにする。

しかし、次年度の1年生はまたタイプが違うので、次年度については動いていきながら次回相談をさせていただければと思う。

学生が良い社会人になれるような教育の現場を作っていきたい。

9. その他

連絡事項 2024年度教育課程編成委員会は年2回を予定

1回目 9月10日(火) または 9月17日(火)

2回目 2月17日(月) または 2月18日(火)

10. 閉会

校長 /多くの意見をいただいたので、次年度に取り入れていけたらと思う。

色々なことを経験し、主体的に行動できるような学生を育てていきたい。